

老人と海、そして囲碁の海へ

北野囲碁同好会 刀根 正樹

明け方に老人は目覚める。手伝いの少年を起こし、帆柱や鋸をかつぎ、海岸のボートへ行く。『幸運を』と少年が手を振る。ハバナの港から、朝焼けに染まるカリブ海に、手漕ぎで、沖へ乗り出して行く。

映画『老人と海』は、ワーナー・ブラザーズ作品。主演スペンサー・トレイシー。原作はヘミングウェイである。このビデオは、50才の頃手に入れた。78才の正月、あらためて見ると、老人としての感慨がこみ上げた。

さて老人は餌にする魚を釣った。『海は美しく、残酷だ。海は生きておる』やがて大きな魚が鉤にかかったが重くて引き揚げられず、姿も見えない。船はゆっくりと北西に動き始めた。『今に死ぬ。何時まで持つか。何て魚だ。どんな姿か見たい。半日たつのにまだ揚がらねえ』海に日が沈み、夜が明け、3日目になった。掌がロープで切れ、血が吹き出た。この時、海面を割り、巨大なマーリン(カジキマグロ)が、空中に舞いあがった。『魚よ、お前は立派でえらい奴だが、利口じゃねえ。だから人間に殺される』魚は三度ジャンプした。老人は魚を引き寄せ、鋸を打ち込んだ。帆を張り、帰途についた。サメの群れが襲来し、カジキの肉を食いちぎり、巨大な骸骨だけを残した。



「老人と海」

船は帆に風を受けて流れ、母港ハバナの灯を見た。老人は敗北感をかみしめ、船底に倒れていた。『海は友でもあり、敵でもある。人間は、海に負けない。破滅はするが、負けはしない』次の朝、少年は、小屋のベッドに倒れている老人を発見し、寝息を確かめ、傷ついた手を見て、涙を流した。老人は幼時に暮らしたアフリカの海、そして

ライオンの夢を見ていた。

『今頃、リンさんは、尖閣の夢を見ているのか』新年の早朝、私はつぶやいた。テレビには尖閣の領海を航行する中国の監視船が映っていた。北野支部の『山本林氏』皆は親しみをこめて、『リンさん』と呼ぶ。リンさんは映画「海猿」で知られる海上保安庁に生涯を捧げ、尖閣諸島等の領海警備、不審船の臨検、拿捕等の海上警察権の行使、海難救助、海図の発行などに当たり、退官後、瑞宝小綬章を受賞、宮中に参内、陛下の拝謁を賜った。

リンさんは沖縄在勤時、尖閣の魚釣島、南小島に上陸している。日本青年社という右翼団体設置の小型灯台の実況検分のためである。あの海は、リンさんの故郷のような存在か。安倍首相は憲法改正の方向という。日中の尖閣海戦は起こるのか。リンさんの老いた血は騒ぐのか。

私は今、囲碁の海を漂流している。鯨やオキアミは追っても、戦争は好まない。週刊碁で活躍する中国人棋士。彼らとの熱き交流こそが、今にして強く望まれる。今年は機会があれば、お手合わせを願いたいと思う。リンさんも私も、強敵マーリン(カジキ)を求め、囲碁の大海を航行する年になりそうだ。

『人生も 末の初夢 海踊る』 『人生の 航路のかなた カジキ舞う』

(碁楽連だより第 246 号 2 月号 発行日 2012 年 2 月 1 日)